

「平成28年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）の結果について次のとおり報告します。

## 1 国公立学校

（ ）は1,000人当たりの件数・人数

		岐阜県			全国順位
暴力行為件数	小	912 件	( 8.3 )	228 件増	4 番目
	中	587 件	( 9.9 )	▲143 件減	15 番目
	高	145 件	( 2.5 )	▲14 件減	7 番目
	計	1,644 件	( 7.2 )	71 件増	7 番目
いじめ認知件数	小	2,096 件	( 19.7 )	69 件増	32 番目 (注)
	中	968 件	( 16.3 )	▲208 件減	
	高	344 件	( 5.9 )	▲10 件減	
	特	34 件	( 13.6 )	▲1 件減	
計	3,442 件	( 14.9 )	▲150 件減		
不登校児童生徒数	小	613 人	( 5.6 )	50 人増	8 番目
	中	1,812 人	( 30.5 )	19 人増	11 番目
	高	639 人	( 11.3 )	30 人増	35 番目
	計	3,064 人	( 13.3 )	99 人増	

(注) 文科省は、校種別のデータは公表せず。岐阜県全体の認知件数は、3,442 件 (14.9)

### ■暴力行為件数

- ・国公立の小・中・高における暴力行為発生件数は1,644件（前年度1,573件）
- ・児童生徒1,000人当たりの発生件数は、7.2件（全国値4.4件）  
前年度の6.8件（全国値4.2件）より増加

【分析】公立小学校：同一児童による繰返し事案の増加

（暴力行為の発生件数912件、加害児童生徒実人数802人 数値差71→110）

### ■いじめ認知件数

- ・国公立の小・中・高・特におけるいじめの認知件数は3,442件（前年度3,592件）
- ・児童生徒1,000人当たりの認知件数は、14.9件（全国値23.9件）  
前年度の15.4件（全国値16.5件）より減少

【分析】公立小学校：担任の発見や保護者からの訴えの増加

（学級担任の発見や保護者からの訴えが810件→951件 +141件）

### ■不登校児童生徒数

#### ○小・中学校

- ・国公立の小・中における不登校児童生徒数は2,425人（前年度2,356人）
- ・児童生徒数1,000人当たりの不登校児童生徒数は、14.3人（全国値13.5人）  
前年度の13.7人（全国値12.6人）より増加

【分析】公立小・中学校：無気力や不安の傾向がある児童生徒数の増加

（不登校理由「無気力」や「不安」傾向の児童生徒401人→467人 +66人）

【分析】不登校状況の長期化

（前年度から不登校の児童生徒数1,295人→1,345人 +50人）

#### ○高等学校

- ・国公立の高等学校の不登校数は639人（前年度609人）
- ・生徒数1,000人当たりの不登校生徒数は、11.3人（全国値14.7人）  
前年度の10.8人（全国値14.9人）より増加

【分析】公立：「不安」・「学校における人間関係」に課題を抱えている生徒数の増加

（不登校理由「不安」・「学校における人間関係」の生徒数153人→183人 +30人）

## 2 公立学校

調査の対象（平成28年5月1日現在）

- ・公立小学校 371校 児童 108,691人
- ・公立中学校 181校 生徒 57,438人
- ・公立高等学校 66校 生徒 45,221人（うち通信制476人）
- ・公立特別支援学校 21校 生徒 2,547人

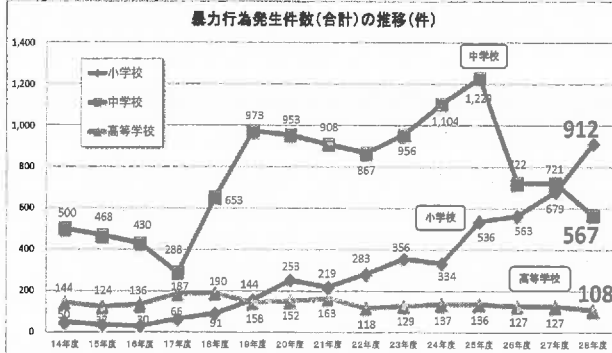
### （1）暴力行為（公立小・中・高等学校）

#### 【①-1】発生件数

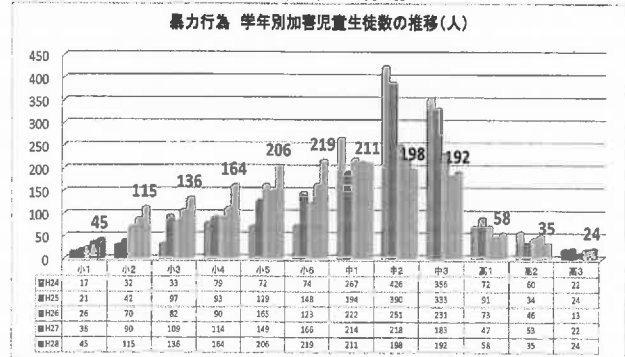
区分	岐阜県			
	H28	H27	増減	前年度比
小学校	912件（8.4）	679件（6.1）	233件増	34.3%
中学校	567件（9.9）	721件（12.3）	▲154件減	▲21.4%
高等学校	108件（2.4）	127件（2.8）	▲19件減	▲15.0%
合計	1,587件（7.5）	1,527件（7.1）	60件増	3.9%

※表の（ ）内の数値は、1,000人当たりの発生数

#### 【①-2】発生件数の推移



#### 【①-3】加害児童生徒数の推移



#### 【①-4】備考

##### ■暴力行為の定義

「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」をいい、被暴力行為の対象によって、「対教師暴力」（教師に限らず、用務員等の学校職員も含む。）、「生徒間暴力」（何らかの人間関係がある児童生徒同士に限る。）、「対人暴力」（対教師暴力、生徒間暴力の対象者を除く。）、学校の施設・設備等の「器物損壊」の四形態に分ける。ただし、家族・同居人に対する暴力行為は、調査対象外とする。

◇小学校では増加。中学校・高等学校では減少。

##### ■暴力行為別発生件数

対教師暴力	小学校	120件	前年度（96件）より	24件増
	中学校	75件	前年度（121件）より	▲46件減
	高等学校	6件	前年度（9件）より	▲3件減
生徒間暴力 （児童間）	小学校	634件	前年度（489件）より	145件増
	中学校	343件	前年度（378件）より	▲35件減
	高等学校	70件	前年度（85件）より	▲15件減
器物損壊	小学校	139件	前年度（87件）より	52件増
	中学校	133件	前年度（208件）より	▲75件減
	高等学校	32件	前年度（32件）より	増減なし

##### ■校種別の加害児童生徒数（実人数）

小学校	802人	前年度（666人）より	136人増
中学校	531人	前年度（615人）より	▲84人減
高等学校	107人	前年度（122人）より	▲15人減

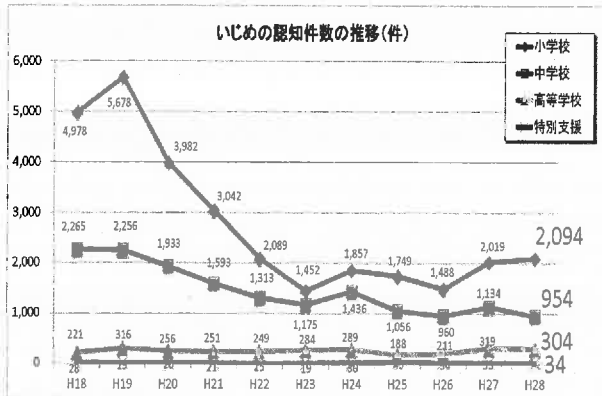
(2) いじめ (公立小・中・高・特別支援学校)

【②-1】認知件数

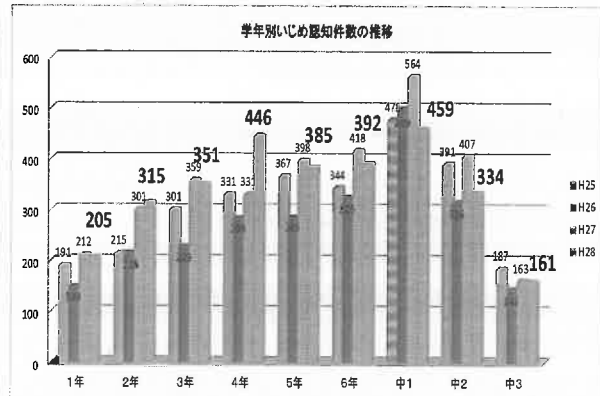
区分	岐阜県			
	H28	H27	増減	前年度比
小学校	2,094件(19.3)	2,019件(18.3)	75件増	3.7%
中学校	954件(16.6)	1,134件(19.4)	▲180件減	▲15.8%
高等学校	304件(6.7)	319件(7.0)	▲15件減	▲4.7%
特別支援学校	34件(13.3)	35件(13.7)	▲1件減	▲2.9%
合計	3,386件(15.8)	3,507件(16.2)	▲121件減	▲3.5%

※表の( )内の数値は、1,000人当たりの認知件数

【②-2】認知件数の推移



【②-3】学年別認知件数の推移



【②-4】備考

■いじめの定義

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」(いじめ防止対策推進法第2条第1項)をいう。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

◇いじめの認知件数は、小学校で増加したが、中・高・特別支援学校は減少。1,000人当たりの認知件数は、16.2件から15.8件に減少。

■いじめ解消率

「解消しているもの(日常的に観察継続中)」の割合

小学校	89.0%	前年度(98.5%)より減
中学校	88.6%	前年度(96.2%)より減
高等学校	72.4%	前年度(92.2%)より減
特別支援学校	50.0%	前年度(91.4%)より減

■いじめの態様 ※上位2項目

小学校	①冷やかしからい等(60.2%)、②遊ぶふりして叩かれる等(25.2%)
中学校	①冷やかしからい等(65.1%)、②遊ぶふりして叩かれる等(15.6%)
高等学校	①冷やかしからい等(53.0%)、②携帯電話等による誹謗中傷(19.7%)
特別支援学校	①冷やかしからい等(64.7%)、②遊ぶふりして叩かれる等(11.8%)

■学校での日常の取組

- ・スクールカウンセラー等を積極的に活用して教育相談体制の充実を図った学校数(割合)  
 小学校100%で実施(前年度より0.8%増)、中学校100%で実施(前年度より0.1%増)  
 高等学校100%で実施(増減なし)、特別支援学校100%で実施(増減なし)

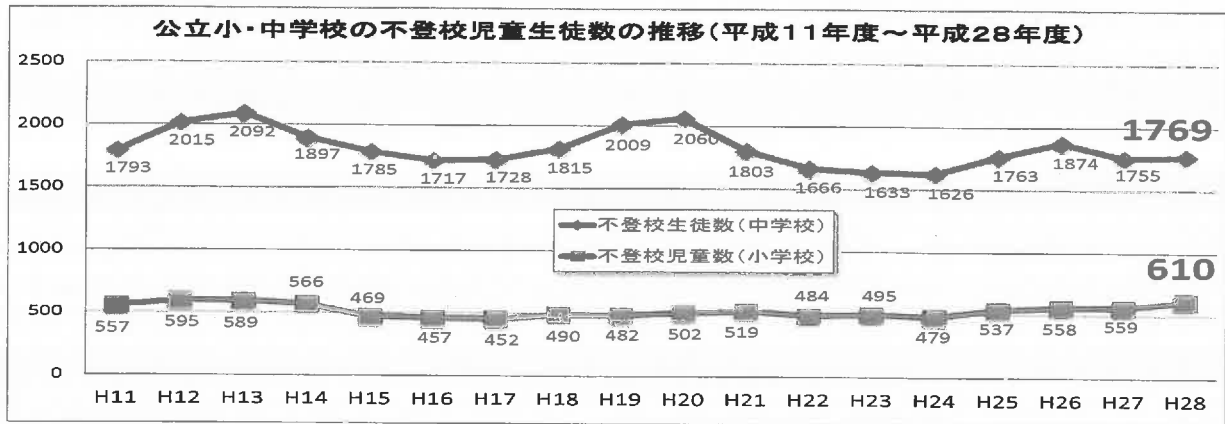
**(3) 不登校 (公立小・中学校)**

**[③-1] 不登校児童生徒数**

区分	岐阜県			
	H28	H27	増減	前年度比
小学校	610人(5.6)	559人(5.1)	51人増	9.1%
中学校	1,769人(30.8)	1,755人(30.0)	14人増	0.8%
合計	2,379人(14.3)	2,314人(13.7)	65人増	2.8%

※表の( )内の数値は、1,000人当たりの不登校児童生徒数

**[③-2] 不登校児童生徒の推移**



**[③-3] 備考**

■不登校とは

1年間に連続または断続して30日以上欠席した児童生徒の中で、何らかの心理的・情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的理由」によるものを除く。)

◇1,000人あたりの不登校の人数は小学校5.6人で微増、中学校30.8人で微増した。

■不登校の要因(分類)

小学校 ①無気力(42.1%) ②不安(34.4%) ③その他(16.1%)  
 中学校 ①無気力(38.4%) ②不安(35.4%) ③その他(12.2%)

■不登校児童生徒のうち、指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒数

小学校 206人(33.8%) 前年度は 145人(25.9%) 61人増  
 中学校 526人(29.7%) 前年度は 531人(30.3%) ▲5人減

■学校外の専門家や機関において相談・指導等を受けた児童生徒数

小学校 230人(37.7%) 前年度は 216人(38.6%) 14人増  
 中学校 438人(24.8%) 前年度は 436人(24.8%) 2人増

■不登校になった児童生徒の相談の状況

学校内の養護教諭やSC等による専門的な相談を受けた児童生徒数  
 小学校 319人(52.3%) 前年度は 298人(53.3%) 21人増  
 中学校 959人(54.2%) 前年度は 921人(52.5%) 38人増

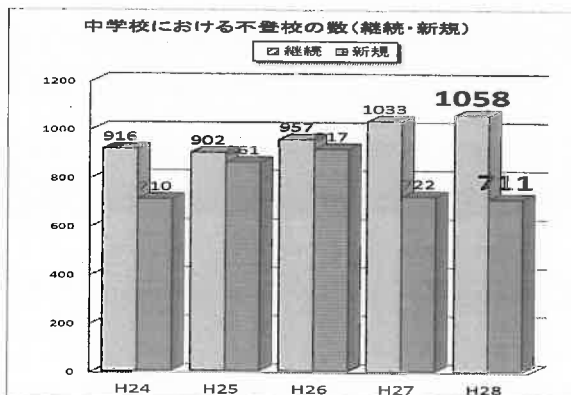
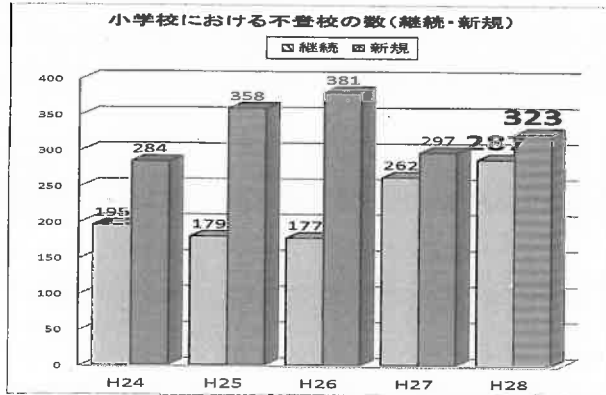
■不登校の状態が前年度(平成27年度)から継続している児童生徒数

小学校 287人(49.2%) 前年度は 262人(46.9%) 25人増  
 中学校 1,058人(59.8%) 前年度は 1,033人(58.9%) 25人増

■新たに不登校となった児童生徒数

小学校 323人(53.0%) 前年度は 297人(53.1%) 26人増  
 中学校 711人(40.2%) 前年度は 722人(41.1%) ▲11人減

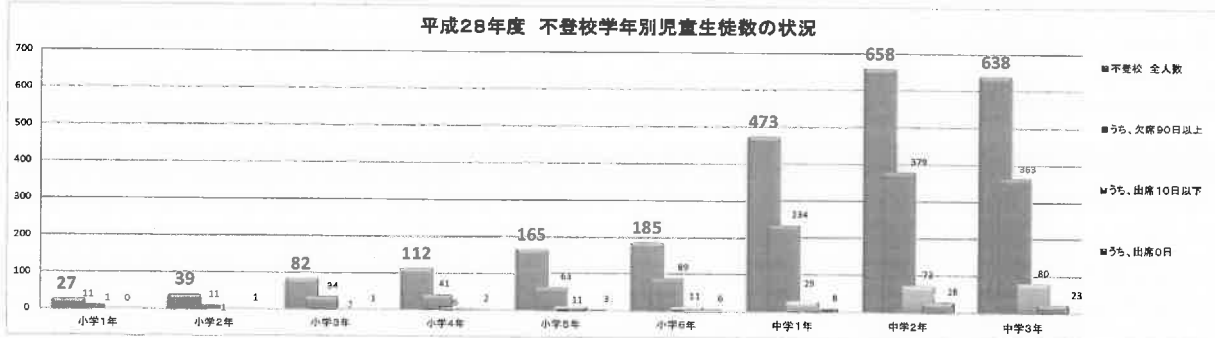
### [③-3]新規・継続の比率



※不登校の状態が前年度から継続している児童生徒 (継続)

※新たに不登校となった児童生徒 (新規)

### [③-4]不登校の内訳



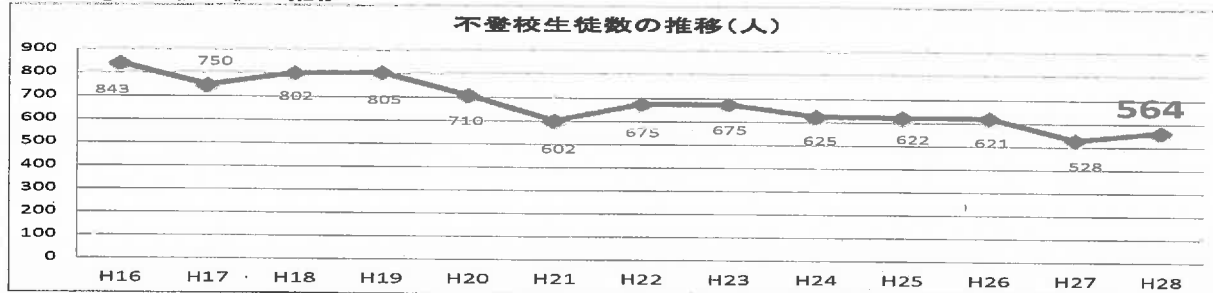
### (4) 不登校 (公立・全日制、定時制の高等学校)

#### [④-1]不登校児童生徒数

区分	岐阜県			
	H28	H27	増減	前年度比
全日制	379人(8.8)	323人(7.5)	56人増	17.3%
定時制	185人(114.5)	205人(117.9)	▲20人減	▲9.8%
合計	564人(12.6)	528人(11.7)	36人増	6.8%

※表の( )内の数値は、1,000人当たりの不登校生徒数

#### [④-2]不登校生徒の推移



#### [④-3]

- ・公立全日制の高等学校における不登校による長期欠席者数は、前年度より56人増加
- ・不登校生徒の在籍学校数 65校 不登校生徒在籍ゼロの学校 9校
- ・全日制における前年度(平成27年度)から継続している不登校児童生徒数及び1,000人当たりの不登校生徒数の増加 89人(27.6%) → 135人(35.6%)

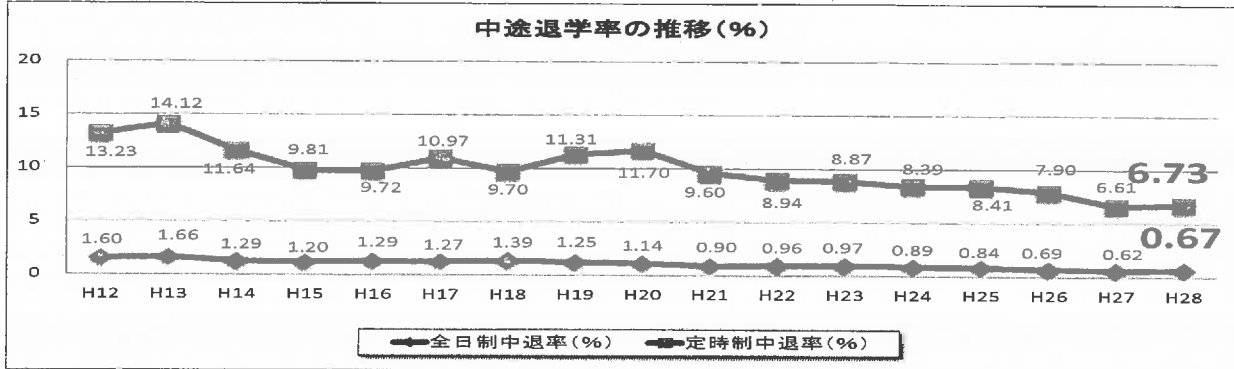
(5) 中途退学者（公立・全日制、定時制の高等学校）

【⑤-1】中途退学者数

区分	岐阜県			
	H28	H27	増減	前年度比
全日制	288人(6.7)	270人(6.2)	18人増	6.7%
定時制	109人(67.3)	115人(66.1)	▲6人減	▲5.2%
通信制	55人(115.5)	29人(60.8)	26人増	89.7%
合計	452人(1.0)	414人(9.1)	38人増	9.2%

※表の（ ）内の数値は、1,000人当たりの中退生徒数

【⑤-2】中途退学率の推移



【⑤-3】備考

- ・全日制及び定時制の高等学校における中途退学者数は、前年度より12人増加
- ・通信制における中退生徒数の増加（29人→55人）
- ・中退理由から、学校生活・学業不適應による中退生徒数の増加（108人→164人）
- ・中退理由の詳細から、「授業に興味を湧かない、人間関係がうまく保てない」による中退生徒数の増加（32人→58人）

### 3 公立小・中・高等学校・特別支援学校における各項目の分析と対策

#### <分析>

##### (1) 暴力行為：小学校での増加について

- ・同一児童が、暴力行為という形で何度も繰り返してしまう事案が増加している。  
※小学校の暴力行為発生件数 912件、加害児童生徒実人数 802人  
(数値差 71→110へ増加)

##### (2) いじめ：小学校での増加について

- ・小学校の段階から教師が軽微と見られるいじめも見逃さず認知し、指導していることと、学校におけるいじめの取組が保護者に十分周知され、保護者のいじめ問題への認識が高まったことが認知件数の増加につながっている。  
※小学校のいじめ発見のきっかけ「学級担任が発見」・「本人の保護者からの訴えにより発見」 810件→951件 (+141件)

##### (3) 不登校：小・中・高等学校ともに増加について

###### 【小・中学校】

- ・不登校理由として、「無気力」あるいは「不安」の傾向がある児童生徒が増加したことが、不登校児童生徒の増加要因の一つとなっている。  
※「無気力」・「不安」傾向の児童生徒 401人→467人 (+66人)
- ・前年度から不登校が続いている児童生徒の増加が要因の一つとなっている。  
※前年度から不登校の児童生徒数 1,295人→1,345人 (+50人)

###### 【高等学校】

- ・不登校理由として、「不安」の傾向あるいは「学校における人間関係」に課題を抱えている生徒の増加が、不登校生徒の増加要因の一つとなっている。  
※「不安」・「学校における人間関係」が課題の生徒 153人→183人 (+30人)

#### <対策>

##### ○暴力行為

- ・暴力行為等防止支援員を学校へ派遣し、児童生徒に付き添うなどのケアにより、心の安定を図る。

##### ○いじめ

- ・未然防止のため、小学校低学年よりスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用し、心理状況や親子関係、生活環境等問題行動の背景の改善を図る。

##### ○不登校

- ・「魅力ある学校づくり調査研究事業※」の成果を広く県内に普及するため、アドバイザーの派遣の充実を図る。

※「いじめ・不登校等未然防止事業」(国事業名「魅力ある学校づくり調査研究事業」)  
H22, 23 下呂市 H24, 25 瑞穂市 H26, 27 海津市 H28, 29 羽島市

<参考>

【図表】 平成28年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査  
岐阜県（公立学校）の特徴（全国数値との比較）

【暴力行為発生件数】

	全国の 件数増減率	岐阜県の 件数増減率	千人当たり件数 全国順位	分析
小学校	+33.8% 増加	+34.3% 増加	H27 H28 3位→4位	・国と同傾向
中学校	-8.8% 減少	-21.4% 減少	H27 H28 10位→15位	・国と同傾向
高等学校	-2.9% 微減	-15.0% 減少	H27 H28 4位→7位	・国と同傾向
合計			H27 H28 6位→7位	

【いじめ認知件数】

	全国の 件数増減率	岐阜県の 件数増減率	千人当たり件数 全国順位	分析
小学校	+56.8% 大幅に増加	+3.7% 増加	H27 H28 19位→32位	・昨年比で増加した都道府県が 9割。 ・中高特でのより積極的な認知 が課題
中学校	+19.8% 増加	-15.8% 減少		
高等学校	+1.7% 微増	-4.7% 減少		
特別支援 学校	+33.8% 増加	-2.9% 微減		

【不登校児童生徒数】

	全国の 件数増減率	岐阜県の 件数増減率	千人当たり件数 全国順位	分析
小学校	+12.9% 増加	+9.1% 増加	H27 H28 11位→8位	・国と同傾向
中学校	+4.9% 増加	+0.8% 微増	H27 H28 12位→11位	・国と同傾向
高等学校	-2.0% 微減	+6.8% 増加	H27 H28 34位→35位	・「不安」「学校における人間関係」に課題を抱えている生徒数の増加